

# お薬のしおり



No.211(2019.10)

東京医科大学病院 薬剤部

## 片頭痛とお薬について

みなさんは頭痛に悩まされたとはありませんか？実は日ごろから慢性頭痛まんせいずつうに悩まされている人、いわゆる「頭痛もち」は日本人の3人に1人くらいとみられます。頭痛は、日常的に起こる頭痛、脳の病気が原因の頭痛、慢性頭痛の大きく三つに分けられますが、頭痛全体の約80%を占めると言われているのが慢性頭痛です。また、これはさらに緊張型頭痛きんちょうがたずつう、片頭痛べんぱつずつう、群発頭痛ぐんぱつずつうの三つに分けられます。その中でも今回は、一番身近な片頭痛についてお話ししたいと思います。

### ○片頭痛とは？

片頭痛は10～20歳代で始まることが多く、患者数は全国で約840万人と推定されています。また、女性は男性よりも割合が高く（約3.6倍）、30歳代の女性では5人に1人が片頭痛であるとされています。片頭痛の原因は、ストレスや飲酒、女性の場合は月経げっけいによる女性ホルモンの分泌バランスの変化が挙げられ、不規則な睡眠、天候や温度の変化などの影響を受けることもあります。

### ○片頭痛の症状は？

片側あるいは両方のこめかみから目のあたりにかけて、脈を打つように「ズキンズキン」とした痛みで、発作性、はんぷくせい反復性に起こり、痛み出してから比較的長い時間続きます。また、日常的な動作（歩行や階段の昇り降り等）によって頭痛が増強することも特徴です。吐き気や嘔吐おうとを伴ったり、光・音に敏感びんかんになることもあります。



前兆ぜんちょうの有無によって2種類に分けられ、約20～30%が前兆のある片頭痛のタイプです。前兆のある場合には、頭痛が起こる前に、目の前にチカチカと光るフラッシュのようなものがあらわれ、視野の片側、または中心部が見えにくくなる閃輝暗点せんきあんてんを生じることが多いのですが、手足のしびれや感覚が鈍くなる、言葉が話しにくくなるなどの症状が現れる場合もあります。通常は60分以内に前兆が終わり、その後頭痛が始まります。

## ○片頭痛に使用するお薬は？（院内・院外採用薬）

片頭痛に対するお薬には、頭痛の発作を抑えるお薬と、頭痛の持続時間を短縮するための予防のお薬があります。



### 《片頭痛の発作を抑えるお薬》

①トリプタン系薬剤〔マクサルト RPD 錠、スマトリプタン錠、イミグラン皮下注・点鼻液、レルパックス錠 20mg（院外）、アマージ錠 2.5mg（院外）〕

：過度に拡張した脳血管を収縮させ、神経性の炎症を抑えることで頭痛発作を抑えます。頭痛発作が起こってからお薬を用いることで頭痛を改善でき、発作に伴う吐き気や嘔吐も改善します。頭痛が起きたら早め（発症後 1 時間以内）、頭痛が軽度のうちに服用すると効果が得られやすいといわれています。反対に、前兆時点での服用や中等度の痛みになってからの服用では、十分な効果が発揮されにくくなります。

②エルゴタミン製剤〔クリアミン配合錠 A1.0（院外）〕

：血管を収縮させる作用があり、脳の血管の拡張を防ぐことによって痛みを抑えます。古くから片頭痛の治療薬として使われてきましたが、現在は、上記のトリプタン系薬剤を服用できない場合やトリプタン系薬剤で頻回に頭痛の再燃がみられる患者さんに使用されます。

その他、解熱鎮痛薬（NSAIDs）が使用されることもあります。これら痛みをとるお薬の上手な使い方としては、頭痛発作のなるべく早期に使用することと、過剰に連用しないことです。連用により鎮痛薬誘発性頭痛といわれる別の頭痛が起こることがあるため、注意が必要です。

### 《片頭痛を予防するお薬》

〔Ca拮抗薬のミグシス錠、抗てんかん薬のデパケン錠・散、セレニカ R 錠）、β遮断薬のインデラル錠（院外）〕

：片頭痛の頻度が多く日常生活に支障がある場合に、頭痛発作の回数を減らしたり、発作時の痛みの程度を軽減する目的で用いられます。3～6カ月は予防療法を継続し、片頭痛のコントロールが良好になれば予防療法薬を徐々に減らしていき、可能であれば中止します。



～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～